

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3140467号
(U3140467)

(45) 発行日 平成20年3月27日 (2008.3.27)

(24) 登録日 平成20年3月5日 (2008.3.5)

(51) Int.Cl. F 1
A 4 7 G 33/02 (2006.01) A 4 7 G 33/02 D
A 4 7 G 33/00 (2006.01) A 4 7 G 33/00 R

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2008-121 (U2008-121)
 (22) 出願日 平成20年1月15日 (2008.1.15)

(73) 実用新案権者 398013303
 株式会社福宝
 新潟県新潟市南区根岸1511番地
 (74) 代理人 100084102
 弁理士 近藤 彰
 (72) 考案者 石塚 福栄
 新潟市南区根岸1511番地 株式会社福
 宝内

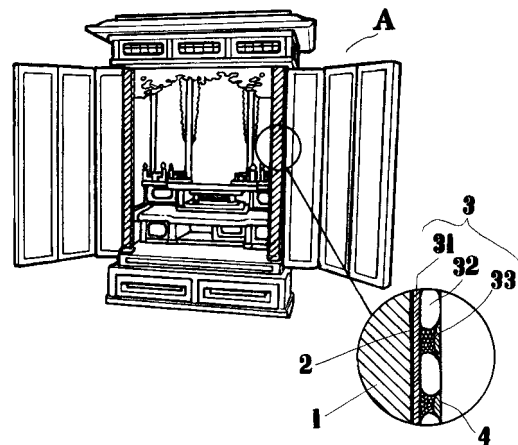
(54) 【考案の名称】 仏壇、位牌等の仏具の装飾構造

(57) 【要約】

【課題】 仏壇、位牌等の仏具において、トルマリン等の有用鉱物を効果的に組み込んでなる装飾構造を提供する。

【解決手段】 位牌等の仏具の装飾構造は、仏壇Aや位牌Bにおける所望箇所（前柱等）の木地1の表面に、粒状の有用鉱物32を漆で付着（付着層31）させて有用鉱物付着層3を形成し、前記有用鉱物付着層3の上面に、生漆による仕上塗付（仕上塗付層4）と共に表面を略平滑面に研磨して、有用鉱物の粒体の一部表面を露出させてなり、仕上塗付層4の厚さの相違による模様と、有用鉱物の露出面による模様が相俟って独自の装飾効果を奏し、また有用鉱物によって周囲雰囲気改善する。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

仏壇や位牌における所望箇所の木地の表面に、粒状の有用鉱物を漆で付着させて有用鉱物付着層を形成し、前記有用鉱物付着層の上面に、生漆による仕上塗付と共に表面を略平滑面に研磨して、有用鉱物の粒体の一部表面を露出させてなることを特徴とする仏壇、位牌等の装飾構造。

【請求項 2】

粒状の有用鉱物と共に炭微粉末を混合して付着させ、有用鉱物の粒体の間に炭微粉末部を設けた有用鉱物付着層を形成してなる請求項 1 記載の仏壇、位牌等の装飾構造。

【請求項 3】

有用鉱物付着層の下層に、薄めた生漆を木地に塗付して木地面を強化すると共に、所望の色漆を塗布して形成した下塗り層を設けてなる請求項 1 又は 2 記載の仏壇、位牌等の装飾構造。

【請求項 4】

有用鉱物がトルマリンを含む複数の種類で構成される請求項 1 乃至 3 記載の何れかの仏壇、位牌等の装飾構造。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、仏壇や位牌等の仏具の装飾構造に関するものである。

【背景技術】

【0002】

仏壇や位牌等の仏具においては、一般に白木の木地で所定の形状に形成し、その表面を漆塗りで仕上げており、更に特許文献 1（特開 2004 - 230132 号公報）に例示されているとおり、一部表面に金粉を塗布したり、金箔を貼着して装飾する手段が知られている。

【0003】

また漆器においては、特許文献 2（特開 2001 - 328106 号公報）に示されているとおり、乾漆粉を混合した漆液を塗付して表面を凹凸に形成した乾漆技法を採用した塗り箸が知られており、特にこの文献には、前記の凹凸表面の凹部に抗菌性を備えたトルマリン微粉末を付着させてなる箸が開示されている。

【0004】

更に特許文献 3（特開 2002 - 355155 号公報）には、漆器において、トルマリン微粉末を混練した漆塗料を木質木地の表面に塗付する構造が開示されている。

【0005】

【特許文献 1】特開 2004 - 230132 号公報。

【特許文献 2】特開 2001 - 328106 号公報。

【特許文献 3】特開 2002 - 355155 号公報。

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0006】

漆器等において、直接食品と接触する表面にトルマリン微粉末を塗付し、トルマリンの効果（マイナスイオン効果、抗菌性等）を利用する手段が知られているが、食器以外の漆器については、採用されていない。

【0007】

またトルマリン微粉末の漆器への採用に際しては、特許文献 2、3 に例示されているとおり、凹凸面の凹部内への充填や、漆液内への混練によって表面に露出しないようにしている。

【0008】

木地の表面に漆塗布面を備えた仏壇、位牌等の仏具において、トルマリンなどの有用鉱

10

20

30

40

50

物の作用を備えるようにトルマリン微粉末を混練した漆液を塗付したとしても、食器のように直接影響を与えようとする器物と相違し、必ずしも有用鉱物の作用が効果的に発揮されるものとはいえない。

【0009】

そこで本考案は、特に仏壇、位牌等の仏具において、トルマリン等の有用鉱物を効果的に組み込んでなる装飾構造を提案したものである。

【課題を解決するための手段】

【0010】

本考案に係る仏壇、位牌等の仏具の装飾構造は、仏壇や位牌における所望箇所の木地の表面に、粒状の有用鉱物を漆で付着させて有用鉱物付着層を形成し、前記有用鉱物付着層の上面に、生漆による仕上塗付と共に表面を略平滑面に研磨して、有用鉱物の粒体の一部表面を露出させてなることを特徴とするものである。

10

【0011】

前記の装飾構造は、有用鉱物の粒体を漆付着層に付着させるか、或いは有用鉱物の粒体を漆液と混合して付着させ、表面に凹凸形状を形成した後、仕上層を形成するもので、仕上塗付層の厚さの相違による模様と、有用鉱物の露出面による模様（吸光型偏光子としての作用や、鉱物の反射光）が相俟って独自の装飾効果を奏することになり、また有用鉱物は温度差（灯明の点灯によって雰囲気温度が変化する）等によって焦電効果を奏し、周囲雰囲気を改善する。

【0012】

20

また本考案（請求項2）は、特に前記装飾構造において、有用鉱物の粒体と共に炭微粉末を混合して直接付着させ、或いは漆液に有用鉱物の粒体と共に炭微粉末を混合して付着させ、有用鉱物の粒体の間に炭微粉末部を設けた有用鉱物付着層を形成してなるもので、有用鉱物の粒体の間に炭微粉末が介在するので、有用鉱物の粒体が偏在することなく、且つ有用鉱物の粒体の間を炭微粉末部で満たすことで、有用鉱物付着層表面の凹凸形状を浅くし、仕上層の形成を容易にしているものである。

【0013】

更に本考案（請求項3）は、有用鉱物付着層の下層に、薄めた生漆を木地に塗付して木地面を強化すると共に、所望の色漆を塗布して形成した下塗り層を設けてなるもので、有用鉱物付着層の付着を堅牢にすると共に、地模様の色彩を選択することが出来る。

30

【0014】

また本考案（請求項4）は、特に有用鉱物がトルマリンを含む複数の種類で構成されるもので、トルマリンの作用（マイナスイオン効果等）の他、他の有用鉱物の作用を得ることができる。

【考案の効果】

【0015】

本考案の構成は上記のとおりで、仏壇、位牌等において、従前に見受けられない新規な装飾構造であり、意匠的效果が高められると共に、有用鉱物の粒体が、その表面の一部を露出して存在することになり、周囲空気が当該有用鉱物と接触することで周囲空気の改善に寄与することになる。

40

【考案を実施するための最良の形態】

【0016】

次に本考案の実施形態について説明する。本考案の装飾構造は、仏壇Aにおける前柱、上台輪や、位牌Bの側面等の装飾すべき所望の箇所（仏壇では金色装飾部分を除き漆面の箇所）に施すもので、当該箇所の木地1の表面側に順次、下塗り層2、有用鉱物付着層3、仕上塗付層4を積層状態で形成したものである。

【0017】

前記構造を、その製造手順に沿って説明すると、下塗り層2は、木地の表面に薄めた生漆を塗付し、漆を木地1に浸透させて乾燥し、乾燥表面の毛羽立ちを平滑処理した後、薄めの黒漆（他の色漆でも良い）を全体に塗り、乾燥後平滑処理（ペーパー研磨）を行う。

50

この下塗り層 2 は必要に応じて行なうもので、前記手段に替えて一般の漆器製造における下地処理と同様手段を採用しても良い。

【0018】

有用鉱物付着層 3 は、前記下塗り層 2 の表面に黒漆（他の色漆でも良い）をやや厚く塗り、付着層 3 1 を形成し、トルマリン、その他の有用鉱物の粒体 3 2 と、炭微粉末 3 3 を混合して前記付着層 3 1 に散布付着させる。

【0019】

また前記手段に代えて、有用鉱物の粒体 3 2 と、炭微粉末 3 3 を漆液に混合し、この混合漆液を塗付して、有用鉱物の粒体 3 2 及び炭微粉末 3 3 を付着させても良い。

【0020】

仕上塗付層 4 は、前記有用鉱物付着層 3 の表面側を研磨し、生漆を薄めた液を塗付し乾燥させて有用鉱物の粒体 3 2 及び炭微粉末 3 3 の付着を確実とし、更に研ぎ（平滑処理）、生漆の塗布、乾燥、研ぎを数回繰り返し、最後に黒漆（他の色漆でも良い）を塗布し、仕上げ研磨を行なって形成するものである。

【0021】

而して前記漆塗りによる装飾は、表面にトルマリン等の有用鉱物の表面が露出すると共に、表面漆層の塗布の微妙な相違によって濃淡模様（ゆず様模様）が形成されることになる。

【0022】

従って独自模様を備えた仏壇や、位牌を提供できると共に、有用鉱物からの自然放射や、温度変化（気温の変化、灯明の点灯による有用鉱物の表面の空気温度）による放射によって周囲空気の改善（遠赤外線放射、マイナスイオン放射、抗菌作用、脱臭作用）がなされるものである。

【図面の簡単な説明】

【0023】

【図 1】本考案の実施形態（仏壇の例）の説明図。

【図 2】同（位牌の例）の説明図。

【図 3】同製造工程の説明図。

【符号の説明】

【0024】

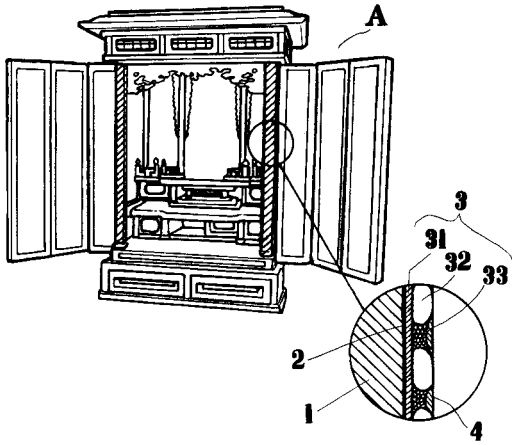
A	仏壇
B	位牌
1	木地
2	下塗り層
3	有用鉱物付着層
3 1	付着層
3 2	有用鉱物の粒体
3 3	炭微粉末
4	仕上塗付層

10

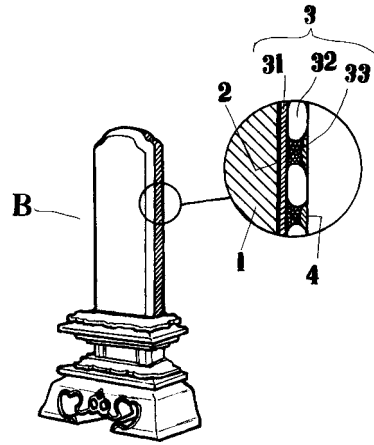
20

30

【 図 1 】



【 図 2 】



【 図 3 】

